

賀 正

DENCOM

電制のブランドマーク(商標)です。これからもよろしくお願ひします。

年 頭 ご 挨拶

代表取締役 田上 寛



新年明けましておめでとう御座います。昨年9月に株式会社電制の社長に就任致しました田上で御座います。昨年中は皆様には大変お世話になりました。ここで改めて御礼申し上げます。

年頭にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。社長就任から4ヶ月目に入ろうとしておりますが、その間、世界経済はまさに激震状態で、サブプライムローンの破綻による所謂サブプライムショックが引き金となるアメリカ発の世界的金融危機は、米証券4位であったリーマンブラザーズを破綻に追い込み、その影響で更に金融信用収縮が加速。その後、株式市場は大暴落、ついには日本最大の牽引企業であるはずのトヨタ自動車までもが、収支見通しの大幅下方修正、雇用削減という対応に迫られた現実を目の当たりにして、経済不安は益々深まるばかりです。さて、この様な中、私は昨年、新社長として船出しました。お会いした方々からは、景気悪化の時期に社長就任で大変ですねという労いとも、思わず出た本音とも言えるお言葉も頂きましたが、この様な不安定な時期ですから当然でしょう。しかしながら、この厳しい景気環境下での経営は新社長となった私だけに課せられたものでもなく、これを大変だと嘆いても意味がありません。今は、この後に必ずやってくる景気の上昇気流に乗るために何をどうすればよいかを考え、着実にその準備をする時期に自分達が居ると認識すべきでしょう。

ここで、新社長となった私の職歴紹介を兼ね、私の考える経営スタンスをお話します。私は、大学卒業後、就職早々、北海道電力(株)殿の変電所や発電所あるいはダムなどで使われる機器の設計を任せられ、現場での各種試験などにも従事し、その後、技術部門の責任者、営業部門の責任者、専務取締役を経て、現在に至ったのですが、振り返ってみますと、私の多くの時間は北海道電力(株)殿の沢山の方々と共に過ごしてきており、契約物件での皆さんとの関わりは当然にしても、その他にも様々な事象で貴重なアドバイスも頂きながら、素晴らしい人達に囲まれ仕事をさせて頂きました。

当社は現在、北海道の企業として、テレコンあるいはダム管理システムなどの自社開発製品で、本州大手メーカーの製品牙城を何とか崩し、生産出荷を行っています。困みに、当社テレコンの出荷台数は既に100面を大きく超えており、ダム管理システムにおいては、当社は北海道企業局や北海道電力(株)殿に納入実績を持つ道内唯一のメーカーとなり、北海道電力(株)殿のダム施設全体の7割程のダムに当社システムが導入されるに至りました。この様な実績を踏まえ当社は、出荷済製品においてもこれから出荷する製品においても、今後ともお客様に信頼され、安心して利用して頂けるよう、より一層の飛躍に務めます。

さて、ここで、私の社長就任時に社員全員に話した経営基本方針について、以下

に記載させて頂きます。

電制の経営基本方針は、

『人に感動を与えることを業とする会社であり、社員みんながワクワクする会社であること』

です。そして、これを実現するための社員心得は、

- 人に感動を与える社員であれ
- 信頼される電制であることを基本とし、期待される電制であれ
- 仕事は楽しく行え
- 常に新しいことを考え、仕事に生かす社員であれ
- 社員みんなが、良き仲間として互いに助け合う集団であれ
- 活気ある大きな声で挨拶する社員であれ

です。これは、電制社員としての必須の心構えであり、電制社員としての行動の基本です。

そして、電制の経営ビジョンは、

『電力分野製品の創出と電力分野技術支援業務を事業のコアとして充実を図り、さらに、全国市場向け製品の創出で、電子電気技術特定分野でのリーダー企業となる。』

です。

当社成長の原点は北海道電力(株)殿の各種電気設備の製造と現地試験業務の受注にあり、その業務の中から生まれた商品や技術ノウハウは、現在の当社の強みであり、経営基盤でもあります。従って当社は、今後更に電力分野推進体制を強化し、これを軸として経営の充実を図り、その上で、その裾野に電力分野から派生する技術での創造製品を拡充、全国市場獲得と経営安定を図ってまいります。

最後に、創業者の精神に触れて年頭のご挨拶を終えたいと思います。当社創業者は、社是に「挑戦」という言葉を3度使いました。創業者が社是を考え、「挑戦」という言葉で表現しようとしたとき、創業者は何を考えたか。この言葉は考え付いたのではなく創業者の生き様から出た言葉ではないかと私は思っています。

挑戦という攻めの気持ちを大切にしろ！ 攻めの気持ちを忘れるな！ 攻めの気持ちを持ち続けろ！と、創業者は自分自身に、そして仲間である社員への檄ではないか。

攻めの気持ちは、人としての生きる活力であり、会社成長に必要な不可欠な精神です。

創業者のこの挑戦の言葉を受け継ぎ、活き活きとした会社作りに努め、新春をスタート致します。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

製品紹介

33kV 屋外キュービクルのご紹介

33kV屋外キュービクル（一体型アルミハウジング式開閉設備）【写真1】は、風力発電設備や太陽光発電設備から電力会社への系統連系、33kV送電線から受電して配電用変圧器への接続を行う開閉設備、変圧器から33kVへ降圧した電力を送電線路に分配する機能を持つ設備等様々な電力系統に柔軟に対応が可能です。一体型アルミハウジングには、33kV母線・遮断器・計器用変成器・制御保護に必要な配電盤が組み込まれており、本キュービクルの導入により一体型オールインワンの効果として現地工事期間の大幅短縮に大きく貢献することが出来ます。（写真2は本体を2分割して輸送据付を行った例。現地での据付はわずか1日）



写真1 - 全体風景

〈導入効果〉

現地作業量大幅低減とスピードアップ

- ・主要機器個別調達と比較して、オールインワン（一括発注）の為、施工

管理業務が大幅に低減。

- ・オールインワン構造の為、開閉器類や配電盤の装置間ケーブル工事・受入試験・総合試験は工場内で実施し現地へ輸送。現地作業量の大幅低減とスピードアップが可能。



写真2 - 本体据付風景

耐環境性能の向上（安全かつ長期的な運転を維持）

- ・全機器をハウジング内に収納の為、充電部露出は最小限。塩害・風雪害・鳥獣害に対して安全な設備である。
- ・断熱性能の高い硬質ウレタンパネルを採用し高気密高断熱により結露を防止。また構造上外部と内部の熱伝達経路を極力形成させない構造の為、冬季間屋根融水による氷柱障害が防止出来る。

今後も、一体型アルミハウジング式開閉設備として工期短縮や施工性と保守性効果を十分発揮し、安全かつ長期的な運転を維持できる設備をご提案していきたいと考えております。

最後に、本キュービクル納入に際し多方面にわたり指導して頂いた北海道電力(株)の関係者様に深く御礼申し上げます。

新商品紹介

汎用テレメータ 今春発売予定

当社は、北海道電力(株)殿のご高配により、CDT型・HDLC型・制御盤一体形といった遠隔制御装置の開発を行い、ご採用頂いております。このように永年蓄積してきた情報通信技術を応用し、小型・低価格・汎用性・信頼性を追及した汎用テレメータを今春発売予定です。電源・CPU・モデム・入出力ユニットなど、各機能部位を独立したユニット単位で構成し基本収納ラックに実装します。従って、必要な機能ユニットを選択することにより低価格なシステムとして構成することができます。今後もより多くの仕様に対応できる各ユニットを順次ラインナップしていく予定であります。

ビジネスEXPO 第22回北海道技術・ビジネス交流会出展報告

第22回北海道技術ビジネス交流会が昨年の11月13日、14日にアクセスサッポロで開催され、盛況のうちに無事終了しました。

お蔭様で、当社ブースにも多くの方々にご来場頂き、展示製品に興味を持って頂くことができました。

今回は以下のバナー広告の通り、今春完成予定の衛星通信データ伝送装置（DOC-2000）をメインに展示しました。なお、本装置には入出力機能を標準装備しているため、地上通信網未整備地からの各種情報が衛星通信を使用して手軽で、かつ安価に遠隔監視できる装置となっています。



技術講習会への取り組み

一昨年の遠方監視制御装置に引き続き、昨年も北海道電力(株)札幌統括電力センター殿の関係者にご参加頂き、保護リレー盤を対象とした講習会を弊社にて開催しました。66kV送電線保護リレー盤と昨年開発した6kV N形配電盤を対象に、主に装置概要と波形解析システムなどを含めた操作取扱いについて実習形式にて受講頂きました。滝川テクニカルセンター殿での講習会（弊社より講師派遣）も含め、今後ともお客様のニーズに合わせ、より内容の充実した講習会にすべく取り組んでいく所存です。



受注紹介

砥山発電所ほか、保守支援装置 受注

北海道電力(株)殿より、砥山発電所他、水力発電所保守支援装置を受注致しました。現在現地調整作業中ですが、今後は豊平川水系にある藻岩発電所、豊平峡発電所、定山溪発電所、小樽内発電所にも順次納入していく予定です。

当社は、他社に先駆け従来から保守支援装置を北海道電力(株)殿へ納入してきていますが、今回はネットワークカメラによる現場映像モニター、写真や文書ファイルなど、任意の電子データが保守支援装置によって発電所と事務所でやり取りできる等、既に構築していた装置のIPネットワーク化を活用した機能アップを図っております。

今後も水力発電所の保守をより強力に支援できるよう、「現場の声」を頂きながら保守支援装置を発展させて参りたいと考えております。



装置外観

次世代ダム管勉強会の推進

当社は、道内唯一のダム管理システムメーカーとして北海道電力(株)殿のダム施設である豊平川水系を始め、道内5水系に納入させて頂いております。その実績のもと、当社では2007年に社内プロジェクトを立ち上げ、北海道電力(株)殿との意見交換会などを行わせて頂きながら次世代向けのダム管理システムの検討を進めていますので、乞うご期待下さい。



編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年、私事ではありますが、一時他部署で2ヵ月間勤務しました。

何年も図面上の2次元で見ていたものが、現物の3次元のものとしてとらえる事が出来、とても貴重な経験でした。長く一つの所に留まることでは見方・考え方が凝り固まってしまい全体から物事を見る事が出来なくなる事を実感しました (N)